

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 3月 23日

事業所名 きらりは一と那覇新都心

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			広く使うため体操用具等は適時片付け、机も折りたたみ式で用途に応じて設置している。	
	2	職員の配置数は適切である	6			規定で決められた職員数を配置している。 職員が送迎に出る際、安全に活動できるよう職員の配置や活動内容を考えてい	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		2	4		階段でしか上れない所がある。上り下り困難な利用児がいないため、改善予定なし。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		1	MTGで目標を話し合い、週に一度振り返りを行い評価している。	できていない日もあるため、1日1日確実に目標設定と振り返りを行う仕組みを確立していく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6				
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6				
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2		4		現在、第三者による外部評価は行っていないが、今後第三者による評価内容を確認し、業務改善に繋げていけるようにしたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	2			感染症対策で受講する機会は減っているが、体操の補助訓練や市町村で行う研修はリモートで参加している。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	6			体験や契約の際、気になることや困り感を確認し、一人ひとりの子どもに合わせた支援内容を職員で話し合い、支援計画書を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6				
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6			職員間で療育活動の話し合いを持ち、立案している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6			週ごとに発展していくようなプランを組み立てている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6				
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6				
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6				
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		1		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6				
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	6				
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	6					

		チェック項目	はい	どちらとも いいえ	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最もふ さわしい者が参画している	5		1		基本的には児発管が出席しているが、他の職員 も対応できるような体制をとっていく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等 の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連 絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の 連絡)を適切に行っている	6				
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場 合は、子どもの主治医等と連絡体制を整え ている	1	1	4		現在、該当する児童が在籍していないため、受 け入れの際は連携した支援を行える体制を取っ ていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認 定こども園、児童発達支援事業所等との間 で情報共有と相互理解に努めている	6				
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業 所から障害福祉サービス事業所等へ移行 する場合、それまでの支援内容等の情報を 提供する等している	3	2	1		新年度へ向けて現在携わっている学校の相談は行え ている。該当児童がいないため、今後出てくることを想 定し、職員や相談支援委員と連携をとり、移行してもス ムーズに支援ができる仕組みを構築していく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研 修を受けている	2		4		感染症対策の観点から、オンライン研修には参加して いる。関係性を作っていく、研修を受けたり、助言を頂 けるようにしていく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 がいのない子どもと活動する機会がある	1	1	4		戸外活動で外に出ることはあるが、感染症対策のため 交流する機会を作っていない。今後様子を見ながら交 流する場を企画していきたい。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加 している	1	2	3		症対策のため参加を見送っていたが、少しずつ様子 を見ながら参加をしている。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合 い、子どもの発達の状況や課題について共 通理解を持っている	6				
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保 護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている	3	1	2		必要に応じて、研修や講習の情報は伝えている。 。	
保護者への 説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等につ いて丁寧な説明を行っている	5		1		
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相 談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っ ている	6			送迎の際に、気になることや子育ての悩 みなど聞き発達特性 に沿って一緒に考え ている。	答えられない悩みなどに対しては、持ち帰って職員皆 で共有し、必要な助言と支援を行っている。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を 支援している	5	1			感染症対策のため、保護者会など行うことができない が、人数制限を行いながら参加できる研修の場を設け ている。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応 の体制を整備するとともに、子どもや保護者 に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適 切に対応している	4	1	1		
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事 予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者 に対して発信している	6				
	35	個人情報に十分注意している	6				
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎 通や情報伝達のための配慮をしている	6				
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地 域に開かれた事業運営を図っている	1	1	4		感染症対策もあり、地域と関わりを持つ機会が少ない ため、今後保護者などと協力して計画していく。

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
非常時等の 対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	6				各マニュアルを策定しており、契約時に周知をしておりますが、再度周知を行っていきます。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6			年に2回、避難訓練を取り入れており、消火訓練や実際の避難先に行くなど、定期的に行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6			マニュアルを作成しており、虐待防止責任者を設置し、利用児の様子を細かく観察するよう心掛けている。研修や講習にも積極的に参加している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6			やむを得ない(利用児の危険に関わる)身体拘束等、職員間で周知徹底し、契約時に家族にその旨を伝えている。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	6				
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6				